



# だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば  
 代表 加藤 賢三  
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
 (財)千葉県環境財団 環境技術部  
 環境活動推進チーム 気付  
 電話 043-246-2180  
 FAX 043-246-6969

## 身近なことから始めよう、めざすはストップ温暖化 環境シンポジウム2006千葉会議報告

環境シンポジウム千葉会議実行委員会実行委員長 大西 優子

去る 11 月 12 日に、日本大学生産工学部で「環境シンポジウム 2006 千葉会議」全体会が開催され無事終了いたしました。ご協力いただいたみなさまありがとうございました。

9 月よりスタートした 6 つの分科会では、第 1 分科会「地球温暖化防止」では温暖化防止の意識を効果的にどう広めるか、第 2 分科会「ごみ問題」ではレジ袋を減らしマイバッグ持参を進めるために、第 3 分科会「里山・川・湿地の保全」ではミッション（使命感）とパッション（情熱）がアクション（行動）を産む、第 4 分科会「環境教育」では地域から学ぶ環境教育でライフスタイルの見直し改善、第 5 分科会「地域の環境保全」では市民・行政・大学・企業等幅広いジャンルから身近な地域での環境活動を、第 6 分科会「学生・若人の環境保全活動」では様々な組織がネットワークを形成し継続的な行動を、など身近なことから始める温暖化防止について議論されました。昨年シンポジウムの提案で設置された「CO<sub>2</sub> ダイ

エットちば」行動委員会からは、CO<sub>2</sub> ダイエット宣言（宣言数 5588 人）マイバッグづくりの報告がなされました。

ポスターセッションでは、各団体の活動や全市町村の環境の取り組みの紹介があり、説明員のついているパネルの前では熱心な質問が見学者から寄せられていました。

全体討論では、どのようにして温暖化問題を広めてゆくか、その具体的手立てについて団体間の提携、行政との協働についてなど活発な意見交換がなされました。具体的な行動指針については、全体会討論を参考に次回実行委員会に提案し採択することを確認して、シンポジウムは閉会しました。

今年は、学生のシンポジウムに向けて風力発電システムの試作、学内外での環境活動、実行委員会参加など、学生の澁刺とした真摯な姿が印象的でした。

### 第 1 分科会(地球温暖化防止)報告

第 1 分科会 会長 青木 清

『広めよう！一人ひとりのエコライフ』のテーマのもとに、平成 18 年 9 月 9 日（土）13 時～17 時、日本大学生産工学部 津田沼校舎 14 号館 403 号室ほかを会場として開催された。会長の開会挨拶の後、山地憲治 東京大学教授の基調講演、千代慎一 室長（千葉県庁）の千葉県地球温暖化防止計画の解説、内山実行委員（スト温代表）のグループ討議の進め方の説明、そしてグループ討議および発表まで、予定通り終了した。参加者は 92 名。基調講演のテーマは「地球温暖化の現状と各国の取り組み」。経済開発が持続可能で生態系がなんとか危険に脅かされない究極の目標水準として、CO<sub>2</sub> の限界濃度を 550ppm とすると、この値

は技術の組み合わせで対応可能との結論であった。千葉県環境生活部環境政策課の千代室長からは「ちばCO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>ダイエット計画の概要」の説明があった。千葉県は産業部門が CO<sub>2</sub> 排出量の 3 分の 2 を占めているのが特徴。2010 年の削減目標は 1990 年比マイナス 1.3% である。家庭部門のエネルギー消費量を 2002 年比 10% の削減を目標としており、その具体的メニューが紹介された。グループ討議は 6 グループで行われ、最後に全員の前で討議のまとめが発表された。数多くの提案があり、後日、実行委員会に取りまとめて、全体会で報告されることになっている。

## 第2分科会（ごみ問題）私見感想報告

環境シンポジウム千葉会議実行委員

森 登美子

テーマは、「減らそうレジ袋！！ - なぜ、広まらないマイバック - 」でした。

問題提起としての基調講演では、「環境リスクを低減させる市民活動のあり方」。情報提供としての講演では「容器包装リサイクル制度の改正を契機とした レジ袋対策の現状と今後」。事例発表として、市川市資源じゅんかん政策課より「『資源じゅんかん型都市いちかわ』をめざして - マイバック運動の概要と成果 - 」「もったいない運動 in ICHIKAWA」について、代表の松本定子氏から生活共同組合ちばコープ環境推進室から「ちばコープ レジ袋削減（買い物袋持参）の取り組み」について、とそれぞれ発表をして頂きました。レジ袋の環境への負荷を広く周知しながら、<レジ袋の持ち帰りを断るという行為>が持つ、「拒否する事での選択権の行使」という事を、メリットとして考え広めて行く方策なのか、「レジ袋の有料化」という、経済的ペナルティ感による抑制なのかを思考する内容でした。



その後、5グループに分かれて、「マイバックを普及させ、レジ袋を減らすにはどんな方策が良いか？」についてワークショップ討議を行いました。ユニークな様々なアイデアで紛糾し、消費者としての役割、企業としての役割や期待、行政への期待等が発表されました。分科会開催にあたり、「レジ袋・エコバック アンケート」の集計、データ化、環境省より借用の、前小池百合子環境大臣プロデュースの「もったいないふるしき」の展示も行いました。

## 第3分科会（里山・川・湿地の保全）報告

第3分科会は、9月17日（日）午後1時～6時まで、日本大学生産工学部津田沼キャンパス14号館にて、「日々の生活の場に、里地・里山を取り戻そう！ 環境保全、とりわけ温暖化防止のキーを手にしよう」をテーマに、開催された。分科会は大西実行委員長長の挨拶で始まり、基調報告、事例報告、討論と以下のプログラムで続いた。

### 基調報告

横須賀靖・飯塚静三・萩原晃氏らによる「富士川の清流を取り戻す会」の活動報告

田口迪夫氏（美しい手賀沼を愛する市民の連合会）による「より良い自然環境の実現を目指して」事例報告

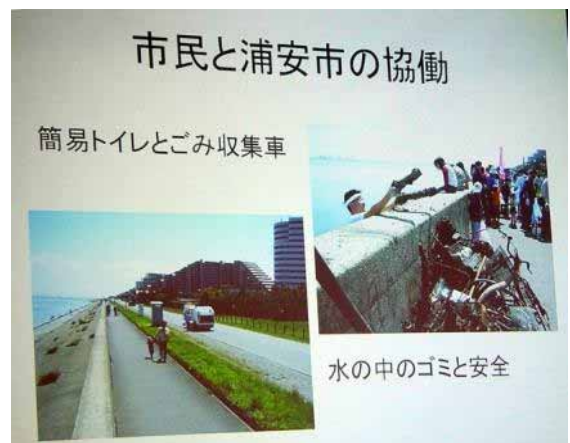
加藤賢三氏（八千代オイコス）による「八千代市におけるアダプト制度による活動」

春山房子氏（柏市名戸ヶ谷ビオトープを育てる会）による「同会の事例報告」

広田由紀江・横山清美氏（三番瀬クリーンアップ大作戦）による（同会の事例報告）

矢内泰次氏（まつどの川づくり楽会）による「松戸市における環境保全のための環境教育の例」

岩崎涼子氏（水アドバイザー・紙上发表）による「市川市水アドバイザーの活動」



基調報告では、環境美化を市民の目線から行政との協働を通じて、花開かせた富士川、そして手賀沼の事例が話され、10年を越える長期の環境保全活動の成果でもあり、いずれも特筆に価する。事例報告では、エコマインドの修了生が比較的短時間内で、地域の水環境、里山保全、環境学習に取り組んできたか、という発表が印象に残った。今後とも、この分科会が里山・里地・里海の保全に向けて継続性のある活動発表の場になることを祈りたい。

（文責：広報部）

## 第 4 分科会（環境教育）報告

テーマ： 環境教育の大交流会に集合！

シンポジウム月間かな？と思われる 9 月 16 日（土）日本大学生産工学部津田沼キャンパス 14 号館で、午前 10 時～午後 4 時まで開催されました。

日頃、環境教育活動をしている方、学校の先生など 37 名の参加がありました。内容は、腐葉土づくりからの学び（船橋市八木が谷小学校、千葉市さつきが丘東小校のプログラムと活動報告）

落ち葉めぐりからの学び せっけんづくりからの学び 多文化理解からの学びでした。

腐葉土づくりは、今年の教育分科会で作成したキット？を使った学校、深さ 40 cm の穴を掘り落ち葉を入れてつくった学校の 2 例でしたが、子ども達や先生、保護者の方にも好評だったそうです。落ち葉を堆肥化することは、どこが温暖化防止なの？等意見交換もありました。

落ち葉めぐりは、キャンパスに出て落ち葉の裏、土の中の生物探しを体験しました。双眼実体顕微

鏡から覗く小さな虫は、以外にきれいで不思議な世界でした。多くの生物がいること、生態系があるということを実感した場面でした。NPO 法人せっけんの街からは、学校での環境学習プログラムについてでした。学校に予算が無い為、実施できないところもあるそうです。食用油を流さないことは、水をきれいにする大切なことです。合成洗剤についてもっと知りたいと思いました。多文化理解からの学びは、青年海外協力隊の環境教育活動、インドネシアでの実践報告、シンポジウム国際部会で活動している、タイのコー・ヤオ・ノイでの活動報告でした。外から自己を見ることで、ライフスタイルを見直すことにつながります。また、若い人たちが頑張っている様子は頼もしく、地球市民の 1 人であるということの自覚を再確認しました。（文責：広報部）

## 第 5 分科会（地域の環境保全）報告

9 月 24 日（土）日本大学生産工学部津田沼キャンパス 14 号館にて「見て聞いてやってみよう、温暖化対策を！」をテーマに第 5 分科会が開催されました。分科会は、日大生産工学部 木田教授の挨拶で始まり、小野研二氏の事前見学会「自然エネルギー利用施設見学会報告、事例発表と続きました。その内容は、以下の通りです。

ヒマワリエコプロジェクトちばコープ・くらしづくりサポート推進室自然体験・植木啓美氏より「千葉県が進める資源循環型社会づくりのモデル事業」 特定非営利活動法人・北区リサイクラー活動機構 理事長・竹腰里子氏より「行政との協働（受託事業）・エコーのように拡がれ リサイクルの輪 住民が管理・運営するエコー広場館の活動」 浦安市環境部ごみゼロ課 課長・永井一彦氏による「浦安市の資源循環の取り組み - ビーナス計画とともに」 我孫子環境管理推進センター・篠田伊佐雄氏による「地域社会との交流

と協働活動の紹介・日本電気（株）我孫子事業場」

NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会環境マネジメント支援センター・二宮恵氏による「エコアクション 2.1 の普及活動」 東京電力（株）東火力事業所 池田光男氏による「東京電力（株）『ピオトープそが』での環境コミュニケーション活動の紹介」 松戸雨水の会・中岡丈恵氏 & 浦安・広田由紀江氏による「みんなであつめよう！省エネグッズの紹介貴方は、どれを取り入れられますか？」 日本大学生産工学部土木工学科 環境を考える会による「自転車用発電機を用いた風力発電システムの試作」（中でも、これが一番注目を集めました）

その後、関心のある事例報告に一人ひとりが集いグループになり、報告への質問や日ごろの活動からの疑問等の交流を行い、大変にぎわいました。（文責：広報部）

## 第 6 分科会（学生・若人の環境保全活動）報告

10 月 7 日（土）千葉大学法経学部棟においてテーマ「学生が地域と考える環境教育」が開催されました。はじめに、NPO 法人環境文明 21 の藤村コノエさんから「持続可能な社会は環境教育から」という基調講演がありました。学生に対しては、





教職員と一緒にエコスクールづくりを通して人材育成をという提言がありました。

この後、千葉商科大学環境 ISO 会議の加藤朋美さんから市川市と連携して環境教育に取り組んで、中学校での講師、大学のシンポジウムでの小中学生・保護者との体験講義や千葉県公募型環境学習にも取り組んでいるとの報告がされました。

千葉大学環境 ISO 学生委員会天笠康平副委員長からは、付属幼稚園・小中学校において環境教育を実施し、職員・保護者とも交流をしているとのことでした。大学内でもレジ袋の有料化などの啓発活動から意識向上に取り組んでいます、今後

地域やNPOとの連携を深めたいとのことでした。

この後、参加者と一体になってロールプレイ(なりきり)による、小中学校、家庭、地域職域、議会、大学の長をを活かした環境教育を提案するワークショップを実施しました。地域職域からは、エコフェスタ開催のための人材・場所の提供の提案がなされ、議会からは義務教育における環境教育推進条例の制定と人材育成プログラムの開発の提案がありました。

また、参加者から、大学生の貴重な経験と専門性に期待する意見も多く出されました。若人の活動の継続に期待しています。(文責：広報部)

## 「美しい手賀沼を愛する市民連合会」創立10年のあゆみ

会長 田口 迪夫

手賀沼はかつて、水と緑に恵まれ、季節ごとに訪れる野鳥の群れや豊かな魚介類や植物群、さらに美しい景観が文豪たちの格好の創作活動の場となるなど、手賀沼流域の人々に潤いと恵沢を与える貴重な資源でした。昭和30年代から流域の都市化に伴いこれらの環境は次第に失われ、全国湖沼ワースト1という不名誉な姿に変わりました。手賀沼流域内で、自然環境・歴史文化・生活・スポーツなどに取り組んでいる団体が、失われた手賀沼の環境を取り戻すことを目標に、平成7年「美しい手賀沼を愛する市民連合会」を結成しました。

これまで力を一つにして、統一クリーンデーなどの単独事業、手賀沼流域フォーラムなどの共催事業、水質と生物の協働調査などの協力事業、手賀沼年表や手賀沼マガジンなどの出版事業、沼流域見学会や研修視察会などの勉強会といった多面

的な活動をしてきました。

これらの活動により手賀沼は27年間にも及ぶワースト1から脱却することができました。しかしながら、美しかった頃の手賀沼の環境には程遠い現状にあります。美しい手賀沼を愛する市民の連合会の創立10年に当たり、次世代に誇りを持って引き渡せる環境を伝えるため、行政とのパートナーシップを図りながら、引き続き活動を推進します。そして、流域の人々の力を結集し、子どもたちが遊び、泳げるような豊かな手賀沼にしていきます。

より多くの流域の皆さんが手賀沼の持つ自然の恵みを理解し、誇れる手賀沼の環境再生に関わりを持ち続けることができるような活動を推進していきます。

皆さん！手賀沼にもっと親しみ、もっと美しい手賀沼にしましょう！

## 印旛沼あっぱモデル事業 2006 中間報告会開催

印旛沼あっぱモデル事業 2006 は、印旛沼の水質が水道水源として全国の湖沼中ワースト1である現状から、印旛沼の水質浄化と流域河川の環境整備を如何に図るかを、市民やNPOが、行政の各機関や各種団体との連携を図ることによって、実践可能な活動を展開しようという目的で活動しています。公募・選考を経て11団体が船橋・白井・八千代・佐倉4市にてモデル事業に取り組んでいます。環境パートナーシップちば、印旛沼「印旛沼をきれいにする活動～印旛沼流域子ども会議～」を取り組みのテーマとして採択され、主に夏休みに親子での活動を展開してきました。その中間報告会が、11月18日(土) 午後1時30分～5時まで、千葉工業大学にて、行われました。参加者は、採択され活動している11団体、



千葉工業大学生、教授、4市の市役所担当者、千葉県河川課、千葉県NPO課等、約80名の参加者がありました。

団体の報告時間は10分でした。夏休みの親子体験活動の報告と印旛沼流域子ども会議の話を中心にしました。効果としては、親子での体験活動

の良さ、行政の参加協力を上げました。今後の課題として、親水の川が少ない事、親子での参加者を拡大する事です。皆さんの評価として、子供会議はとても好感を持たれました。プログラムは、中学生や高校生にもありますか？どのようにし

て参加者を募りましたか？など質問もありました。11 団体がそれぞれの場所で活動を展開しています。印旛沼あつぷ事業としては 18 年度で終了ですが、印旛沼をきれいにするための活動は、継続してほしいと思いました。(文責：桑波田和子)

## 印旛沼 わいわい会議 in ふなばし

### ～豊かな水の回廊を作ろう！～

「わいわい会議 in ふなばし」は 10 月 27 日に船橋市北部公民館において開催され、神埼川、桑納川流域を中心に生活排水、農業、湧き水などについて話し合いました。当日は、船橋市を中心に八千代市、佐倉市、千葉市他、印旛沼浄化に係わる市民活動している人、関心のある人、行政の人、約 220 名の参加者があり会場は満杯となりました。

県が策定した「印旛沼流域水循環健全化 緊急行動計画」を一緒に行動して行くため、市民、NPO 団体との意見交換会を平成 16 年度より開催しています。市民・NPO 意見交換会の名称は親しみがうすいということで、翌年から「印旛沼わいわい会議」と呼ばれるようになり、今年の会議につ

ながっています。ここでの意見・提案は、印旛沼水循環健全化会議に報告され、検討されていくという、いわば、印旛沼型タウンミーティングとも言われるものです。今年は船橋会場と成田会場の会議の意見を集約し、すぐ実行できるものは、来年 2 月に開催予定の「印旛沼行動大会」で発表し、検討を要するものは「印旛沼健全化会議」で検討し具体化していく予定になっています。この印旛沼型タウンミーティングがもう少し進化して、生物多様性の保全という目線で、利根川、手賀沼、印旛沼、東京湾という流域に広がると良いと思われま (文責：広報部)。

([http://www.pref.chiba.jp/syozoku/i\\_kaka/i/inbanuma/04event/waiwai\\_mokuteki.htm](http://www.pref.chiba.jp/syozoku/i_kaka/i/inbanuma/04event/waiwai_mokuteki.htm))

## 印旛沼わいわい会議 in なりた

### ～呼び戻そう！ふるさとの生物と私達の暮らし！！～

北印旛沼流域からのわいわい会議は、11 月 9 日(水)成田市で開催されました。

成田文化センターに小林成田市長をはじめ、市民・行政合わせて約 220 人の参加者を前に、「ただいま！母さんおなかすいたー 今日のごはん なぁーにいー」・・・で始まりました。これは、全体会議で「印旛沼流域水循環健全化会議」の取り組みを説明するのに解りやすくしたいとの願いを込めて、課外授業で印旛沼を見学してきた小学 4 年生の子どもとお母さんの会話を進めて、河川課の解説委員に「緊急行動計画」や「わいわい会議」などの説明をうけるというシナリオをつくりました。最後に印旛沼の近くに住む仙人を呼び出して沼の主のお話をしていただいたのです。(沼の主とその悲劇を皆さんはご存知ですか？)

その後、分科会に分かれてそれぞれのテーマで話し合いがなされました。

分科会のテーマは次のとおりです。

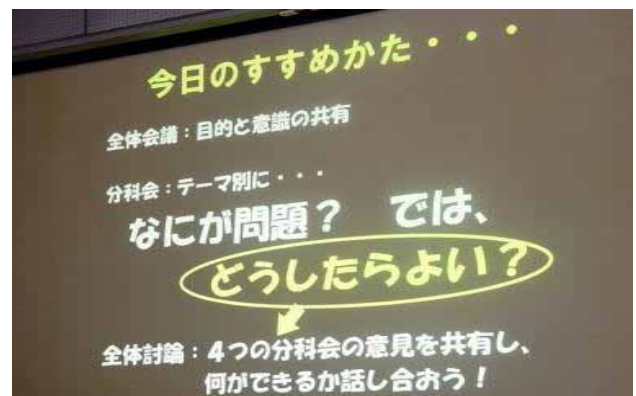
第一分科会 : 続けられる農業・期待される農業

第二分科会 : 呼び戻そう！印旛沼の生き物たち

NPO 委員 荒尾 繁志

第三分科会 : 知っている！でもできない！  
～暮らしの中の排水～

第四分科会 : 印旛沼の環境をどう伝えるか  
分科会後の全体会では、印旛沼の再生に向けて、環境教育が大切だという意見が多く出ました。わいわい会議の目的は「印旛沼流域水循環健全化会議」で実施している「みためし」を県民の皆さんに知ってもらい、流域の市民をはじめ NPO・企業・行政が一体となって取り組むためにはどうしたらよいのかを探ることにあると思っています。最近会議が、シンポジウムになっているような気がして考え直す時期に来ているのではないかと感じています。





## 千葉市出前講座

## 「エコ！省エネクッキング」報告

広田 由紀江

10月7日(土) 千葉市桜木公民館にて省エネクッキングを行いました。これは、2月に行った大人向けの省エネクッキングを、今度は子供向けに！と依頼されたものです。今回のメニューはカレーでした。ごみを減らす エネルギーを大切に使う 水を大切に使う 残さず食べよう！という基本方針を掲げ、小学生1年生から6年生まで幅広い年齢層の子どもでカレーを作りました。

省エネクッキングでは、保温調理を行うことが多いです。これは、「エネルギーを大切に使う」に直接関係するのですが、沸騰したお鍋を発泡スチロールの箱で保温することによって余熱でもとろ火で調理するのと同じ効果を得ることができるといえるものです。保温調理の時間は1時間ほどとります。すると、1時間の環境学習の時間がとれることになり、いくつかの体験を組み合わせることで行うことが可能になるのです。今回は、地球温暖化のお話とともに、ソーラークッカーの体験もしてほしいとのリクエストがありました。当日は何か晴れたのですが、なんと「さぁ！これからおひさまパワーでポップコーンだ！」という瞬間に雲間に太陽が隠れるではありませんか！みんなの気持ちはトーンダウン。私も頭が真っ白になりましたが、最後には太陽も顔を出し、ホッと一安心でした。ポップコーンが弾けると同時に子どもたちの心も弾け、おひさまパワーにみんな感激してくれていました。迎えに来たお母さんの手を引っ

張って自分で説明をする子もあり、何だか嬉しくなりました。

この後、  
11月2  
3日(祝)



に昨年度のエコマインド修了生の皆さんと佐倉で省エネクッキングを行いました。やはり、もともと意識が「エコ」に向いている方々なので基本方針は完璧です。一緒に調理をしておいしくいただきました。公民館で行うのとはまた違う、いろいろな可能性を考えさせてくれるいい機会をいただきました。

11月29日(火) 千葉市稲浜公民館でも省エネクッキングを行いました。「省エネの方法についてもっと知りたい」と、調理しながら気軽にエコライフについて話し合う場となりました。ここでもソーラークッカーを持参したのですが、大人もポップコーンに驚いていました。

講座に参加される方々は、環境団体などで活動されている方は稀の様です。そういった方々にこそ“手間をかけず、おいしく出来上がり、しかも地球にもやさしい”と、日ごろからの調理方法を見直すキッカケになることを願っています。

## パートナーシップエコサロン

## 10月は、「石けんと合成洗剤の問題」について開きました

10月のエコサロンで、生活協同組合などに科学者の立場から助言をしている川口啓明さんにお越し頂き、石けんと合成洗剤を中心に水問題のお話を伺いました。かつて環境汚染や健康問題に関連して、石けんか、合成洗剤か、の議論があり、廃油石けん作りの活動などが盛んでしたが、現在は問題点のほとんどが絞れているとのことでした。

<石けんか合成洗剤か>

現在、石けんも合成洗剤も安全性の面では差がなく、製品の材料によって長短がそれぞれにあるが、メーカーの商品改善、下水処理の普及なども大きく貢献し問題点は少なくなっているようです。そして、汚染の対策は汚染物質を環境に垂れ流さないことが第一であると話されていました。

<生活排水の浄化>

生活排水の代表はし尿や台所・風呂・洗濯の排水であること、その汚水の流れと処理を千葉県を例にとって、いくつかの汚水処理を比較しながら、都市部の対応は進んでいるが、対応しきれていない地域の取り組みが当面の課題の1つであると指摘されました。

汚水処理によって出来た沈殿物は活性汚泥あるいは汚泥と呼ばれ、従来は埋め立て処分が行われていたが、最近は、微生物の死骸の塊であることから肥料としたり、焼却してセメント原料やレンガにするなどのリサイクルが進んできているとのこと。ただし、汚水処理から生まれた原料を基にしているため、品質が一定しない弱点があり、汚水問題のもう1つの課題とのことでした。<それでも石けんのほうが環境にやさしいと言う主張>

この主張は生活雑排水の環境への垂れ流しを

前提としており、汚水処理を行えば、合成洗剤であれ石けんであれ、ほとんどが分解される。汚水処理が行われれば、石けんが小魚の餌になることも、水生生物への合成洗剤の微弱な毒性を気にする必要も

ない。環境への汚水の垂れ流しを前提にした話でおかしい。

<石けんは生分解性がよいのでBOD値が高くてもよい・・・>

生分解性と水質汚濁の指標としてのBODとを誤解、混同している。し尿も生分解性は良く、BOD値も高い。石けんが良いなら、トイレ排水も、河川や海洋に垂れ流しても良いということになる。

<廃油石けんの取扱>

廃油を使った石けんの手作りは、環境教育や理科教育としての実施に限定するならまだしも、家庭や地域での日常的な活動として位置付けることは危険が大きい。

水酸化ナトリウムは苛性ソーダとも言うが、文字通り危険な薬品で、高温処理する。現在、使用する薬品等の知識がない者が日常的に行なうことを奨めている行政はないのではないかと。

今回のエコサロンで、川口さんのお話を伺い、長い間、石けんと合成洗剤の問題で疑問に思っていたことが、眼からうるこのような感じで理解できました。（文責：千葉智雄）

## 次回の エコサロン

### 「生命について」

～ 遺伝子から見えてくるもの～

生物多様性が話題になっています。そのカギを握るものは、命のつながりです。

ここでは、その中心にある、命について遺伝子から見えてくるものについて、小さな微生物から高等生物までに共通するキーワードの遺伝子から見えてくる生命観などを、経験した事柄について中学生でも高校生にでもわかるように少人数対象に話していただきます。

生物多様性が環境基本法などを見直す上で、参考になる情報をもたらすものと考えています。そこから見えてくるものを、一つの環境問題として総合的に議論してみませんか？

日時：12月13日（水曜日）18時30分～20時30分、

場所：船橋市民活動サポートセンターフェイス（5F）

講師：加藤 賢三 氏（環パちば 代表）

資料代：500円

主催：環境パートナーシップちば

申し込み問い合わせ：桑波田

Tel/fax：043-258-5437 e-mail：[kuwahatak@hotmail.com](mailto:kuwahatak@hotmail.com)

## 運営委員会だより

### 9月運営委員会

日時：9月27日（水） pm2:00～4:00

場所：船橋市市民活動センター

#### 報告事項

- 1) 印旛沼あっぱ事業「印旛沼流域子ども会議」
- 2) だより51号
- 3) 環境シンポジウム分科会開催

#### 協議事項

- 1) だより52号について
- 2) 花見川から印旛沼までのエコウォーキング  
・12月2日（土）新川から印旛沼までのエコウォーキング開催。
- 3) エコウォーキングマップづくり

4) 印旛沼あっぱ事業中間報告会開催について

5) 10周年事業

### 11月運営委員会

日時：11月17日（金） pm5:00～8:30

場所：船橋市市民活動センター

#### 報告事項

- 1) 印旛沼わいわい会議報告
- 2) 千葉環境づくりタウンミーティングについて
- 3) 印旛沼あっぱ事業中間報告会  
・11月18日（土）時間：午後1時30分  
会場：千葉工大

#### 協議事項

- 1) だより52号について
- 2) 花見川から印旛沼までのエコウォーキング
- 3) 12月エコサロン
- 4) HPについて
- 5) 18年度補正予算について

## お知らせコーナ

## 環境づくりタウンミーティング開催のお知らせ

開催日	開催地	場 所	主催団体	連絡者(は代表者)
12月9日	山武市	城東文化会館のぎくプラザ 13:00~16:30	環境・自然・里山のタウンミーティング実行委員会	木下敬三
12月10日	千葉市	千葉県立中央博物館 13:00~16:15	環境タウンミーティングちば * 生物多様性ちば県戦略策定 * 環境学習基本方針の見直し * ちば環境再生計画の見直し	小西由希子
12月10日	印西市	東京電機大学福田ホール 13:30~16:00	北総里山タウンミーティング実行委員会	長谷川雅美
12月16日	いすみ市	いすみ市役所 会議室 17:00~20:00	外房地区タウンミーティング実行委員会	手塚幸夫
12月17日	松戸市	市民会館松戸市民会館2階 第202会議室 11:00~12:30	環境タウンミーティング松戸	中岡丈恵
12月17日	南房総市	平久里下 茅葺の家「ろくすけ」 13:30~16:00	環境づくりタウンミーティング南総実行委員会	土居元

問い合わせ先： 千葉県環境生活部環境政策課政策室

TEL: 043-223-4648 E-mail: [e-seisaku@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:e-seisaku@mz.pref.chiba.lg.jp)

ホームページ: [http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/e\\_kansei/](http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/e_kansei/)

## 千葉県立中央博物館の干潟展に行きませんか！

2007年1月27日~2月18日まで、千葉県立中央博物館で、「千葉の干潟展 ~泥と砂に隠れた驚きの世界~」が開催されます。環パちばは、後援団体として参加しています。そこで、環パちばとして、干潟展の見学を企画しました。当日は、解説を鈴木優子さん、博物館の方が担当して下さいます。干潟は生物多様性が豊かで、絶滅危惧種も多いところです。一緒に、海と陸の間の干潟、生物多様性などについて、語り

合いませんか！

同封の干潟展の案内をご覧ください。

日時：2月12日(月)

午前11時(集合：10時40分)

場所：千葉県立中央博物館

お問い合わせ、申込み：桑波田

Tel & Fax: 043-258-5437

e-mail: [kuwahatak@hotmail.com](mailto:kuwahatak@hotmail.com)

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先：千葉県環境財団 環境技術部

環境活動推進チーム気付

TEL: 043-246-2180 FAX: 043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/>

千葉県環境財団 環境技術部 環境活動推進チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		